

ホーム名：グループホーム高石						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の思いをくみ取り生きがいのある暮らしになるようまた、できることを継続して頂けるようお手伝いしている。	理念は5階玄関と廊下の、それぞれ目に付くところに掲示してある。その人らしさ、生きがいを理解しようと一人一人に寄り添い、話しかけ気づき、汲み取ることに力を入れその思いを職員は共有している。	管理者を筆頭に職員の明るさが入居者の生きがいのある暮らしを支えている。また、支援される人と支援する人がお互いに学び合い支え合っている様子が伝わってきた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に入りやすくなるよう七区の自治会の方のお世話にて盆踊りの参加やボランティアのハーモニカ演奏会、近所の喫茶店の受け入れ。家族会を利用して地域の方々に認知症の勉強会を行っている。	開所後3年程は大変なこともあったが徐々に地域の人に理解してもらい盆踊りには入居者全員が参加している。高石のだんじりの時には事業所の窓の下を十何台のだんじりが通り地元の人との交流もあり入居者も楽しみにしている。	今後も地域とのふれあいを大切に家族、事業所、地域の人達の中での暮らしを支援していかれることを期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域全域にふれあい新聞の配布、商工フェスティバルの参加、ボランティアの方に来ていただいている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてサービスの状況や職員スキルアップに向けての研修と行事の報告を行っている。その中で、ボランティアの方に来ていただけるように助言して頂いている。また、外部評価の結果を伝えている。	2ヶ月に1度の会議には校区代表、社会福祉協議会、家族数名が参加して事業所側から入居者の様子や活動状況の報告が行われ、会議終了後には家族との意見交換が活発に行われる。	今後も入居者を支える家族、介護職員、地域の代表者が思いや考えをどんどん出しあい、サービスの充実に繋げていかれたい。運営推進会議録に事業所からの報告だけでなく地域の代表、家族からの意見も入ると更に充実したものになると思われる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	月に一度利用者様の状況を報告。入居相談・困難事例・空床状況など報告を行っている。その際相談SOSネットワーク事業に参加し助言等をいただいている。	民生委員、警察、医療機関などと共に「見守り支援プラン事業」として高齢者、障がい者の見守り活動に参加している。また、年に2回校区全域に「ふれあい新聞」を配布している。	「地域定着型連絡会」にも参加している。今後も市役所との関係は密に取り協力しながら入居者を支えてもらいたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	大阪抑制会に随時参加しホームでフィードバックをして勉強会をしている。ホームで実践したことを抑制の会で発表させていただいている。	病院との関係で玄関と窓は施錠されているが、外に行きたい人にはその意図することを聞き出す努力を惜しまず、わからない時は職員が同行する事や、日頃から出来るだけ外出の機会を持つ事で入居者が閉塞感を感じないよう気を配っている。	認知症であってもその思いに対し、ごまかしは通じないと管理者は考えている。真正面から向き合い、傾聴する姿勢が入居者の安心に繋がっている。その人により症状も性格も違う事から画一的なやり方はなく、「この方にはどうしたらよいのだろう」と、管理者は笑顔の中で常に考えを巡らせている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待のことについて話し合い勉強会を行っている。利用者様と家族様とのかけ橋になり安定した暮らしが出来るよう傾聴している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部の研修に参加しホームにてフィードバック研修を実施して成年後見人制度を活用できるように支援している。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項にてホームを理解して頂けるよう十分に説明し、理解していただいたうえで契約に同意していただく。入退去時も管理者と職員を交え納得したうえで意向を聞きケアに反映している。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて地域の皆様の意見を伺いケアに反映している。家族会を開催し本人、家族様の思いを聞きケアに反映できるよう努めている。</p>	<p>意見箱は設置されている。運営推進会議にも家族の出席があり、日常的に家族の訪問もあり意見や要望もよく聞くことが出来、介護する上での貴重なヒント、提案と捉えて反映している。入居者、家族、職員の三者が一緒に墓参りなどに外出するなどしている。</p>	<p>入居者からも、家族からも謙虚に意見を聞こうとするところに、介護のプロでありながら更なる質の向上を常に模索する姿勢が見られる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>法人の会議に出席しホームの申し送り時や職員会議の際にその内容を報告し、職員の意見を拾い上げ法人の会議で報告している。</p>	<p>職員の気づきが多く一人で考えず、活発な話し合いが出来ている。管理者の持つ温かさや包容力で職員はのびのびとそれぞれの個性を発揮している。</p>	<p>今後もフラットで自分の考えが言いやすい職場で協力して入居者の生活を支援していかれるよう期待している。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各自目標設定を行い随時面談を行うことによりモチベーションを上げやりがいのある職場にしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々のレベルに合わせて定期的に勉強会を行い職員のスキルアップをはかり、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域密着型連絡会やSOSネットワーク事業に参加し交流を図っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人との会話を密にしコミュニケーションを図りながら安心を確保するために努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時に家族様の疑問点や不安点・要望を話し合いながら思いをくみ取り信頼関係を築いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の既往歴と話し合いを元に本人と家族様が必要とすることを見極めそれを含めたサービス対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様をご自身で出来ることはして頂けるように心がけ暮らしを共にする者同士の関係バランスを築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様と情報を共有できるように個々のケアチェック表を見て頂きながら説明を行い要望や助言等をいただき共に本人を支えている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居された後でも行きつけの美容院・病院に行き馴染みの人との関係が途切れないようにし、地域の盆踊り、お祭り、イベントに参加させていただいている。</p>	<p>家族が馴染みの美容院に連れて行ったり自宅と一緒に帰ることもあり、イベントにおいての地域の人との関わりも有り、人との関わりの継続の機会が多く見られる。</p>	<p>散歩等で外出した時や地域の行事の時など顔見知りの方が多いので自然に声かけ、挨拶が行われている。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや行事にて職員が利用者様の間に入り話題を提供したり、同じ生活の中で利用者同士が助け合えるよう支援に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>行事のある時など連絡を行い参加して頂いている。年に一回の法事に行かせていただき故人との思い出を共有している。また、ボランティアとして華道クラブを開催して頂いている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の会話の中で一人一人の思いや希望をくみ取り 実践していけるようにチームで話し合い取り入れている。	日々の入居者との会話の中で、その人の思いを流してしまわず気づくことを職員に指導している。外に行きたいという自己表現が食事を摂らないという行動になることもある。	高齢の入居者が今年初めののど自慢大会に応募しており本人、家族、職員で応援している。他にも行ってみたい所、やってみたい事には応援を惜しまない。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴・暮らし方・生活環境を家族様との交流の中でも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを崩さないように努めている。その日の表情・行動などいろんな状況にも目を配り 医療との連携も図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の一人一人のアセスメントを行い、医師・ナース・PT・歯科の方々とも連携を図り介護計画を作成している。	介護計画は本人の意向を尊重して作られ、毎月担当者職員がアセスメントを行っている。日常生活に密着した身近なものから入居者の趣味である釣りをまたできるようにというもので、一人ひとりに合わせて様々な目標が計画されている。	これからも介護計画に基づききめ細かい見直しを行いながら、身体介護、生きがいを含めた目標を作成し支援に繋げられることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表をしっかりと記入し 特別なことがあれば特記事項に記録し、全職員が把握できるようにしている。 申し送りノートも作り活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によりホーム内にとられず個別での支援も積極的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさん、地域の方々に協力して頂き、本人が今までして来られた事を継続できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前より通院されていたかかりつけの病院に付き添いで受診に行っている。かかりつけ医師の往診も行っている。	階下の経営母体の高石病院への受診は月2回であるが、訪問当日も医師や看護師2名がそれぞれ仕事の合間に立ち寄り、温かく見守っているので安心である。 歯科の往診は週1回行われている。かかりつけ医を希望する人には月1回30分500円で職員が同行している。	事業所は高石病院内にあるが、今後も本人の希望に沿って柔軟性のある通院支援を継続される事を期待する。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>ケアチェック表にて、日勤から夜勤へ情報共有している。医療連携にて日々の状態報告を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>常にホームの状況を医療連携病院に情報提供している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアの勉強会を行い、家族様と常に話し合い、体調に応じてケアを変えている。ケアを終えた後反省会をし家族様にアンケートを取り次に繋げるようにしている。</p>	<p>常日頃から入居者の気持ちに寄り添い家族に対しても職員のほうから心を開き、入居者、家族、職員の三者の信頼関係を積極的に構築するよう努力している。終の棲家としても心安らかに過ごせるよう真摯に取り組んでいる。</p>	<p>これまでに4人の方を看取り、末期ガンの方にもどうしたら楽に過ごせるか、喜んでもらえるか、心を尽くして介護し、医師と看護師も毎日往診し、痛みを訴えることなく安らかな最後を迎えられた。亡くなられた後、ホームで過ごされた様子を撮影したビデオを観ながら「偲ぶ会」を行ったことは残された家族に対しても心の温まる支援と高く評価できる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急の研修に参加しAEDの使い方も勉強してきている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回法人全体で消防訓練を利用者様と共に参加し地域との連携も図っている。</p>	<p>年2回、本法人の消防計画に基づいて消防訓練を行う。平成25年には夜間グループホームからの出火を想定し階下の病院職員の協力のもとシートやマットを用い非常階段のあるベランダへ避難した。</p>	<p>建物の構造上スプリンクラーの設置はないが防災扉、自動火災警報器、避難階段3ヶ所、防火カーテンを活用している。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人に合った声かけの仕方を工夫して変えている。生活歴から本氏の自慢したい事・個人の良い思い出時のことを話している。触れて欲しくない事随時職員会議・申し送り話し合い皆で情報の共有をしている。</p>	<p>一人一人の生育歴も含めて知った上で、その人の気持ちを理解するために寄り添い言葉に耳を傾ける事を大切にしている。その結果本人のやる気や喜びを引き出す介護が出来るようになってきている。</p>	<p>介護者が行う方が早く、効率的であっても、出来る事を入居者にしてもらうことで一瞬一瞬共に喜びを感じることが出来ている。高齢で介護度も重度ではあるが人の役に立つことで、意欲を引き出し明るくいきいきと生活している姿を拝見できた。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>その日その日の言動の中で気づきを得て声掛けを行い本人の思いや希望を引きだせるように実行している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人に合ったペースで対応。時間に決まりをつけず利用者様一人一人のペースで支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎月一回の訪問美容院にてカット、地域のなじみの美容院がある方は外出しそこでカットをしている。また行事などで外出などするときは化粧も行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の体調に合わせて工夫して提供したり、行事の際には利用者様の好きな物を提供したりしている。食事は職員も一緒に食べ、下膳・配膳・食器洗いは利用者様も行っている。</p>	<p>2ヶ所の配食サービスのメニューを取り寄せ一日ごとに良い方を選んで注文している。配膳下げ膳、食器洗い、包丁を使って野菜切りなど、出来る範囲で入居者と一緒に行う事で自信や張り合いが出来ている。</p>	<p>皆、箸を使いとろみ食の人はいらず、意欲的に食を楽しんでいる。ピザやスーパーのチラシを見て買いに行ったり喫茶店や外食にも職員と1対1で出かけることもある。これからも食の楽しさを大切にしてほしい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>一日一日の食事量・水分量を見て少なければ、好みの物を提供したり、少しでも摂取していただけるように声掛け工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週往診歯科にて見てもらい、虫歯等の治療や口腔ケアの指導を歯科衛生士にしてもらっている。一日三回口腔ケアを行清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のトイレのタイミングを計り声掛けを行ったり、トイレへ誘導しパットを汚さずなるべくトイレにて排泄していただく様支援している。</p>	<p>必要以上に手とり足とりするような支援を拒む人もおられる。手をかけすぎること出来ないことが増えてしまわないよう、失敗してもいいから見守りを重視し大らかに支援をしている。</p>	<p>トイレにはナースコールが設置され、必要な時以外はドアの外で見守る。足のむくみや脚力の維持にも日常的に気を配るようにしている。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>牛乳や果物、青汁を摂取して頂いたり、またホットタオルにて腹部のマッサージを行い便秘予防の対応に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴剤を入れたり季節の行事にそったもの(ゆずなど)を入れたり、会話を楽しんだり歌を歌ったり、曲を流したりしている。</p>	<p>要介護4、5の入居者は介助するが、要介護3以下の人には基本的に自分でしようとする気持ちを大切に支援しており、浴槽に入る時に手を添えたり背中など手の届かないところを言葉かけをして手助けをするようにしている。</p>	<p>風呂を嫌って騒ぐ人の対応もCDを流したり、家族からアドバイスを受けたりその都度話し合い試行錯誤し、前向きに次に繋げている。入居者が拒否するという行為に対しても隠された本音を皆で考察しようという大らかな受け止め方を感じる。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調の変化を見て居室にて横になっていただくよう声掛けをしたり、カーテンで光の調整をしている。また、季節に応じて空調管理や加湿器、湯たんぽなどを使用している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対して関心を持ち処方箋を読んで理解するようにしたり、症状の変化なども気づけるように努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からお花が好きな人は華道クラブに参加したり、外出が好きな人は外出したりして個別サービスに取り組んでいる。		
49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の好きな物を食べに行ったり、買い物やドライブなどを楽しんでいる。また地域の盆踊りにも参加している。地域の誘いでOSKや映画などにも参加している。	雨の日以外は出来るだけそれぞれの希望を叶えられるよう職員の努力が見られる。買い物や外食に行ったり、自宅に戻り奥さんと会話したり、自宅の水やりを毎日通うなどしている。姫路セントラルパークへは入居者4人と職員4名でハイエースで日帰り旅行にも行った。	なばなの里に高齢の入居者2名と職員2名で介護タクシーで1泊旅行に行った。本人の強い希望と家族の賛成があった為ということだが、入居者、家族、職員の間に関係が強い信頼関係が初めて出来ることだと考えられる。今後でもできる範囲内で続けていただきたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や家族様の状況や希望に応じて、本人様了承のもと使えるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	出来る限り本人の希望にそえるように支援を行っている		
52	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理及び季節に応じた壁面作りや季節の花を飾ったり、目に付くところには日ごろの写真や掲示したりして生活感や季節感を取り入れるよう努めている。	皆で意見を出し合い、より使いやすい様に家具の配置を変えたり、廊下の手すりや突っ張り棒の位置変更などを行っている。	リビングには入居者と職員の明るい笑い声が響いていた。今後も家族の中でのくつろぎの空間のような温かい共用空間づくりを期待する。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気兼ねなくいつでも好きな時に来れて、自然と利用者様同士が集まれるような空間づくりに努めている。また、リビングの大きな窓を遮ることなく外の風景を一望できるように座席にも工夫している。		
54	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力のもと昔の思い出の品物を持ち込んでいただいたりして、過ごしやすい空間づくりに努めるよう工夫している。	転倒することが多くなってきた人の部屋の箆筒やベッドを本人の了承のもと、伝わって歩けるよう配置替えをしたり介護度が4から5に変更した人にも自力で立ち上げられるよう手すり棒を移動させるなど状況の変化に伴いきめ細かな支援をしている。	皆で一つ一つ試行錯誤しながら改善していくようにさりげなく環境を変える配慮や工夫が見られる。今後も期待している。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の居室内では自由に衣類の出し入れができるように自分で工夫されたり、行動をしやすいうように自分なりに工夫して手すりとなるものを作り上げている。それを職員はそっと見守っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない